

日比谷野音に7300名が結集!



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 平山芳夫
編集者 清水孝次

2007年12月15日
第1447号

●国労加入を
大胆に訴えよう!

一一三〇全国大集会 「JR採用差別」早期全面解決を迫る

十一月三十日、雨の上がった東京日比谷野外音楽堂に、国労、建交労をはじめ労働組合、各種団体、個人が結集し、JR不採用事件の早期解決のための『二十年の節目、総力をあげた闘いで勝利を! 「JR採用差別」全面解決を迫る11・30全国大集会』が開催された。七三〇〇人が日比谷野外音楽堂の内外を埋め尽くした。長野からは、支援共闘二十二名、国労組合員六十名が参加した。

オープニングのスペシヤル・ブレンドの演奏により、国鉄合唱団の歌声が響く中、ぞくぞくと参加者が詰め掛け、古澤美代子さん(都教

組書記)、加藤照代さん(国労婦人部長)の進行で11・30大集会が開会した。主催者を代表して高橋伸二(国労中央執行委員長)があ

いさつを行い、呼びかけ人岸澤壽良氏他九名(内五名が出席)が紹介された。来賓には、民主党共産党、社民党の各党から議員が見え、それぞれから力強いあいさつを受けた。都労連、フォーラム平和・人権・環境、全労連、全労協からのメッセー



ジが読み上げられ、各労働団体の闘いへの決意が会場内へ伝わった。

弁護士報告では、全動労争議団鉄道運輸機構訴訟弁護団の加藤健次主任弁護士が登壇し、全動労裁判は七月二十五日結審し、年内目途で判決が出されるとの予定であったが、裁判所は判決を来年一月二十三日へと持ち越す事を決定した。加藤弁護士は、キチンとした判決をだす為の延期であることを信じて、と述べ、鉄道運輸機構側の理不尽な主張を批判するとともに、最高裁判決での不当労働行為に関する判決文からも、裁判所は不当労働行為を認めるしかない、裁判所への要請行動を強めようと呼びかけ、組合差別の責任をキッ



争団全国連絡会議長、工藤博志全動労争議団副団長、酒井直昭鉄建公団訴訟原告団団長それぞれが、二十年の思いと闘いの決意が述べ、つづいて家族を代表して、熊本闘争団家族・野田ゆみさん、全動労争議団家族・渡部雅子さん、音威子府闘争団家族・藤保美年子さんの三名が「皆さんの支えにより今日まで闘えた。子育てと闘いを両立させ闘ってきた。私たちの人生が狂わされた二十年であった」と二十年間の苦闘を赤裸々に語るとともに、会場に結集した仲間たちにもうしばらく力を貸してほしい、と呼びかけた。

「当事者が満足する解決」を勝ち取るまで断固闘う、との集会アピールを山口弘文国鉄闘争支援中央共闘会議事務局長の提案により参加者の大きな拍手で確認し、佐藤陵一建交労中央執行委員長の間会あいさつ、二瓶久勝国鉄闘争に勝利する共闘会議議長の間会挨拶、野田ゆみさん、音威子府闘争団家族・藤保美年子さんの三名が「皆さんの支えにより今日まで闘えた。子育てと闘いを両立させ闘ってきた。私たちの人生が狂わ

職場からの要求実現に向け 各支部定期委員会終了

11月10日の中南信支部の定期委員会を皮切りに、12月1日に車両所、東北信の両支部の定期委員会が開催された。各支部とも「安全・安定」輸送の確立に向け、組織的に闘いを進め職場要求実現のため闘うことが確認された。

新執行部は次の通り

	東北信支部	中南信支部	車両所支部
執行委員長	小松才之	太田克彦	下平文雄
執行副委員長	高橋徹	塚原勝	村田彰
書記長	富沢政一	塩原智久	諏訪浩一
書記次長	柳原昭治	上條規夫	-
執行委員	中村賀文	原博司	徳武稔巳
"	高橋則雄	稲原直	丸山博巳
"	矢澤栄雄	西村則人	鈴木英人
"	田中義久	百瀬秀雄	西沢千秋
"	若林進	落合彦彦	北澤正美
"	田中裕治	城戸久寿	川浦賢司
"	丸山幸往		杉山忠明
"	長田明		
"	飯塚一美		
青年部長		西澤直樹	
婦人部長	倉石真知子		

JR不採用問題の全面解決を求めて！ — 国労支援長野県共闘会議総会 —

紋別・美幌闘争団と固い握手

朝ビラ・街宣行動

地方本部は国労支援長野県共闘会議総会（一県一集会）に先立ち、十二月十二日から十四日、JR不採用問題の早期解決と新テロ特措法に反対するチラシ三千八百枚の配布を街宣行動と共にを行った。

中南信支部は十二、十三の両日、松本駅、南松本駅周辺の各戸チラシ配布と宣伝カーによる街頭宣伝を行い、延べ三十名の仲間が参加した。車両所支部は十三日に北長野駅、長電吉田駅で朝ビラ配布、東北信支部は十四日に長野駅前での朝ビラ配布と街頭宣伝を行い

国労の主張を訴えた。

長野駅前では、ビラを受け取った五十代のサラリーマンは「まだ闘っているのか。頑張ってください」と激励の声も寄せられた。

百十名が結集

十五日、国労支援長野県共闘会議定期総会が県労働会館で開催された。支援共闘の仲間や、紋別・美幌両闘争団の団長も含め百十名

国労本部 高橋委員長 「政府の決断を求める」

この後、国労本部の高橋伸二委員長が「国鉄闘争の現状と今後の取り組み」について次のように述べた。

二十年間闘い続けることが出来たのは支援共闘の力添えのおかげ。長野は我々の手本であり運動の励みになっていた。昨年の鉄建公団訴訟の判決も清算事業団（現鉄道運輸機構）に責任があることを明確にしている。人道的、人権問題としても早期解決しなければならぬ。また「早期政治解決」の全国自治体決議も七三〇自治体へのぼり、人口



「国労本部 高橋委員長」

が参加した。総会は地本の佐藤書記長の司会で始まり、高橋博久県支援共闘会議議長は挨拶で「二十年間ともに支援共闘も闘ってきた。この闘いは単に国労のみの闘いではなく、今後予想される他の職場での労働運動にも大きな影響を与えるもので必ず勝利しなければならぬ」と語った。続いて平山地本委員長が日頃から

の支援共闘の仲間の協力に感謝の意を述べ、また紋別・美幌両闘争団のこの間の思いと、これからの支援を報告した。



東北信支部の長野駅前での街宣とビラまき

できた。

この間四者・四団体は規律の取れた行動ができ、運動の積み上げで相手の態度に変化が生まれてきた。鉄道運輸機構は責任の当事者として解決に責任があると

し、どのような解決方法があるか知恵を互いに出して欲しい、と変化してきている。また、国交省は一方が判決で解決、もう一方で最後まで争うという姿勢に強い不信感を持っている。しかし一月二十三日に予定されている全動労裁判の判決に注目し、その判決をみてから対応する流れのようだ。

また国交省の内部にも人道的な立場から早く解決するという意見もあると聞いている。これからの流れとして、相手の動き、出方をよく見て柔軟に解決に向けて運動を取り組む。政治的な関わりでは民主党議連、とりわ

け北海道・九州の雇用問題として四者・四団体との意見交換を行った。解決に向け全力を挙げる。しかし、カベは厚いものがある。地方から一県一集会を開催し、もう一度運動を作り上げ運動を持ってこのカベを打破り、解決の成果を一日も早く確認できる闘いを進め、今国会の中で政府の決断を求めたい。

紋別闘争団

清野 隆団長

関係が正常化され、六年間の時の流れは万感胸に迫る思い。この間の努力に感謝したい。

例えば四党合意が組合としての論理と当事者の思いで噛み合わなかった。しかしこれからは前に向き解決に向って進みたい。

私達は雇用・年金・解決金の三要素が切実な要求だ。裁判では不採用の理由と

して国労運動に盲従した結果だといわれている。まさにここに国労組合員であるが故、不採用になった最大の理由がある。全動労裁判の判決も目の前に迫り山場に来ている。ともに頑張ってください。

美幌闘争団

長縄孝則団長

六年の期間を今後の運動でお互いに頑張ってきて良かったと思うものにした。団員の中にはまだ素直にこの間の問題を話せない仲間もいるがよく話し全力で闘って行きたい。

長野の支援の体制は全国一だと思っている。しかしこのような闘いを後の世代に残したくない。われわれの様な組織労働者は恵まれている。そんな中、納得できる解決に繋がっていく運動にしたい。

紋別・美幌の両団長は以上のようにあいさつし、高橋支援共闘議長、平山長野地本委員長と力強い握手を交わした。

この後、単産を代表して印刷労連の若林書記長、地区支援共闘を代表して長野地区労組会議の神山議長から決意表明を受け、「JR不採用問題の全面解決を求める決議」を全員一致で採択し、高橋議長が団結がんばろうで閉会した。

引き続き行われた懇親会では、国労本部高橋委員長、紋別・美幌両闘争団長も参加し、交流を深めた。



紋別・美幌両闘争団長との固い握手